第１号様式④（第９条関係）

提　案　書　要　約

１　事 業 名

マイボトル洗浄機を活用したマイボトル普及に向けた実証実験

Building2Bottle-赤坂インターシティAIR 1棟まるごとマイボトル化PJ-

２　応募者名

日鉄興和不動産株式会社

３　内　　容

（１）目的・位置付け

日鉄興和不動産株式会社は、オフィスビルの賃貸事業や住宅分譲事業等を行う総合不動産会社です。「人と向き合い、街をつくる」という企業理念のもと社会課題を解決する事業にも取り組んでいます。

・このプロジェクトの目的は、オフィスワーカーの「実現可能な環境アクション」を設計し、実証実験を行うことでマイボトルを普及させるための仕組みを構築することです。企業や個人が継続できる仕組みを提供し、マイボトルの普及を通じて、利用者の環境意識を向上させるとともに、ペットボトルやプラカップなどの廃棄物の量を削減し、脱炭素社会の実現に貢献します

（２）実施内容

実施期間：２０２４年８月２６日（予定）～２０２４年１２月３１日

実施場所：赤坂インターシティAIR（オフィスビル。以下、AIR）

実施内容：

（１）AIRの入居テナント向けの取り組み

①AIRの入居テナントのうち参加を希望した４社の専有部・共用部に象印マホービンのマイボトル洗浄機、ディスペンサー等を設置し、マイボトルが自然と手間なく使える環境を構築。

②上記４社以外のAIRの入居テナントには、各参加企業の従業員に一定数のマイボトルを配布すると共に、従業員向けにマイボトル使用の啓発活動を実施。

（２）AIRの入居テナントの従業員向けの取り組み

①AIRのテナントの従業員に特設サイト上でマイボトルの使用を宣言してもらい、その宣言した人数に応じて、コーヒーを無料にするなど、リワードを提供

（３）AIRの来訪者も含めた全体に向けた取り組み

①AIRの地下1階の共用部にて、象印マホービンのマイボトル洗浄機の実演や浄水器による飲料提供を行い、マイボトルの利用を呼び掛けると共に、オフィスの従業員にマイボトルを提供。（９月１７日～９月２０日に実施予定）

②上記（１）～（３）の取り組みで期間中に削減されたペットボトル量を数値化し、アーティストが海洋プラスチックやペットボトルなどを使用したアート作品としてAIRのロビーラウンジにて「見える化」を実施

（削減されたペットボトル量の数値化については、マイボトルの使用宣言時のアンケートにて、現在使用しているペットボトル量と想定するマイボトルの使用頻度を確認して、推定した上で、取り組み終了のアンケートにて実際の使用頻度を確認することで、数値化を行う。）

（３）取組実績

「マイボトルで未来を変える」共創プロジェクト

・日鉄興和不動産、象印マホービン、ストーリーラインの３社で「マイボトルの利用促進に向けた実証実験」を２０２３年１２月２０日から２０２４年２月２９日まで実施した。

・実証実験の内容は、当社が運営するシェアオフィス（ＷＡＷ日本橋）にマイボトル洗浄機（以下、洗浄機）を設置し、シェアオフィス利用者のマイボトルの利用率向上を目指しました。

・実証実験の結果は、洗浄機の洗浄回数は累計２３７回、１日あたりの洗浄回数は平均５．３８回、Co2削減量はペットボトル換算で約２８．１７kgとなった。洗浄機があることによる行動の変化として、洗浄機利用者の７割の方がマイボトルを使う頻度が増えるなどのポジティブな回答となりました。

（４）本事業において期待される効果

①「マイボトル」を持っているのが普通という社会を作るために必要な設備、環境の実証

保有率が7割を超えるものの、実際に使っているのは全体の3割程度というマイボトル※が、マイバッグのように、持っているのが普通。と言われる社会を作るために、導入が必要な設備や、使うために必要な環境が、どのような環境なのかを確認することで、実装PJにつなげることが出来る。（※象印マホービン株式会社による２０代～６０代の男女を対象としたネットアンケート（２０１９年８月、１０月））

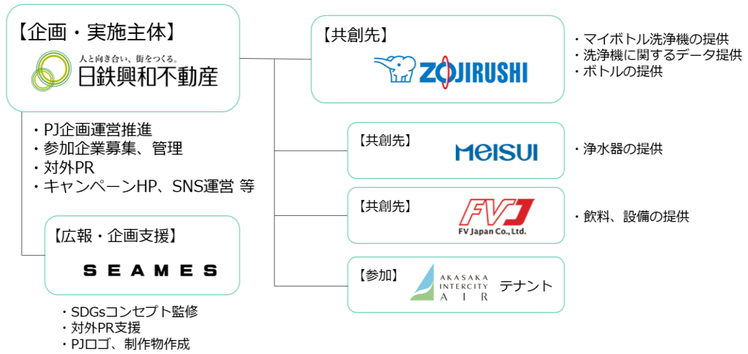
②マイボトルの利用促進を行う企業の増加

SDGsへの対応として「従業員にはマイボトルの使用を推奨している」「従業員向けにマイボトルの配布を行っている」　という企業は多いものの、なかなか従業員のマイボトル利用率が上がらず、対策も出来ていないという企業が多い中で、企業にとっても手間がなく、従業員にとっても無理なく継続できる取り組みを実証することで、企業の取り組みとしてのテンプレートを作り、マイボトルの利用促進を行う。

③マイボトル利用者の増加による廃棄物の削減およびCo2排出量の削減

企業の取り組みとして会社と従業員が協力して、マイボトルの利用促進を行い、従業員にとってマイボトルを使うことにメリットがある状態を作ることで、ペットボトルやプラカップの利用量が減り、廃棄物の量の削減やプラスチックごみの削減によるCo2排出量の削減を行える

（５）実施体制と各社役割



（６）本事業の実施スケジュール

	8月	9月			10月			11月			12月			1月		
	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	▼企画調整															
PJ実施																
		▲PJ実施開始														
イベント等																
			▲イベント実施				▲アート展示									
アンケート・ヒアリング調査																
		▲アンケート取得①				アンケート取得②▲				▲ヒアリング実施						
実施報告											アンケート取りまとめ					
													実施報告書の提出▲			